

動天の赦し

マタイ18:15~20

約10年前のことです。当時の私は、日本宣教のため、熱心に日本語を勉強していました。しかし、なかなか日本語が伸びませんでした。むしろ、そばで勉強はせず、アニメばかりを見ていた妻の方が私より日本語を上手にしゃべりました。それで私は、語彙力を増やすために単語を覚えるとき、対義語も覚えることにしました。「大きい」という単語を覚えるとしたら、この言葉の対義語である「小さい」も覚えました。広いと狭い、男と女、大人と子供など、いろいろな対義語を覚えました。おかげで語彙力が伸び始めました。そして、教会で使っている言葉も同じように覚えようと思いました。ところが問題が起きました。教会や聖書で使われる言葉の対義語を探すのは、容易ではなかったからです。例えば、今日の福音書15節には「罪を犯したなら」という文章が出ます。では、ここで「罪」の対義語は何でしょうか。罪を犯さないこと？ 善い行い？ 功德？ 何が「罪」の対義語になれるのでしょうか。一般的な考えでは、「罪」の対義語は「功」と見なすことができると思います。しかし、キリスト教では「功」が罪の対義語になれないでしょう。聖書での「功」が「罪」に代わったり、「罪」を無効にしたりしたことがないからです。それで私は、残念ながら聖書の言葉をむやみに覚えなければなりませんでした。

皆様は、この「罪」の対義語は何だと思うのでしょうか。辞書を探してみると、罪の対義語として使われているいくつかの言葉を見つけることはできます。しかし私は、辞書ではなく、主の祈りの中でこの「罪」の対義語としてふさわしい言葉を見つけることができました。まさに「赦し」という言葉です。主の祈りの文章の中には、このような文章があります。「われらに罪を犯すものを、われらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。」キリスト教にとって「赦し」ほど、罪と直接対する言葉はないと思います。それでイエス様は、弟子たちに祈りを教えられた時、このように教えられたのではないかと思います。今日の福音書も、この赦しと関係のある言葉です。今日の福音書が「兄弟の罪に対する言葉」だからです。今日の福音書15節の言葉です。「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。」

イエス様は、兄弟の罪について、弟子たちがどう対したらいいかを言われます。まず、訪ねて一対一で忠告することです。これは、イエス様が赦しの本質について語られているのだと思います。多くの人々は、赦しというものは、罪を覆うことだと思います。どんな罪を犯しても見逃してくれること、これが赦しだと思います。しかし、真に赦すためには、ただ見逃してはいけません。キリスト教の信仰の中に、悔い改めない赦しはないように、自分の過ちを認めないのに赦すのは、ありえないことです。私たちの礼拝式文にも「赦しの祝福祈願」だけが書かれているわけではありません。「赦しの祝福祈願」の前には「罪の告白」というものがあります。罪を告白して認めた人だけが、赦しを得ることができるのです。それでイエス様は、罪を犯した者のところに行って忠告しなさいと言われます。彼が真の赦しを得ることができるようにするためです。

しかし、みんながこのような忠告を受け入れるわけではありません。さまざまな理由で忠告を受け入れない場合もあります。それでは、イエス様は一人か二人を一緒に連れて行き、すべてのことが確定されるようにしなさいと言われます。16節の言葉です。「聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。」一見すると、この言葉は、忠告を受け入れない人の過ちを確定しなさいという言葉として読まれる可能性があります。しかし、この言葉は、過ちに対する確定ではなく、明確な事実関係を立証するための言葉です。本当に罪を犯したのか、それとも誤解だったのか、二人や三人を通して起こったことを客観的に見なさいということです。これは、イエス様が申命記19章15節の言葉に基づいて語られたことです。申命記19章15節です。「いかなる犯罪であれ、およそ人の犯す罪について、一人の証人によって立証されることはない。二人ないし三人

の証人の証言によって、その事は立証されねばならない。」一人の証人によって立証されてはならないという言葉は、片方の話だけを聞いてはならないということです。起こったことが罪なのか、罪ではないか、両方の言葉を聞いて客観的に判断すること。それが罪に対するクリスチャンの姿勢にならなければならないと思います。

そして、このような過程を経て、罪と認められたにもかかわらず、彼が受け入れなければ、イエス様はこれを教会に言いなさいと言われます。教会に言うということは、教会が罪を犯した人を裁くという意味ではありません。彼が赦されるために多くの人々が祈り、彼を説得し、彼の悔い改めを助けなさいという言葉です。彼を再び信仰の仲間として受け入れられるように、教会はもう一度、赦しの機会を与えなさいということです。そして、彼が教会の助けによって自分の罪を認めると、教会はキリストの体である教会の名によって彼の罪を赦すでしょう。しかし、変わらず彼が自分の罪を認めない場合は、イエス様は彼を異邦人や徴税人のように見なしなさいと言われます。異邦人と徴税人のように見なしなさいという言葉は何でしょうか。ユダヤ人が異邦人や徴税人に対するように、差別的に対しなさいということでしょうか。そうではなく、教会が彼を裁いたり、彼の罪を問題にして罰を下したりしてはならないということです。ただ彼を外の人のように扱い、すべてのことを神に任せなさいという言葉です。神様がこのすべてのことを正しく導かれるでしょう。

イエス様はこの言葉、罪についての言葉を終えられ、弟子たちにこのように言われました。「はっきり言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる(18節)。」私はこの言葉を読んで、復活なさったイエス様が弟子たちに言われた言葉が思い浮かびました。ヨハネによる福音書20章22～23節の言葉です。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」どんな罪でも、教会である皆様が赦せば、神様も赦されます。しかし、皆様が赦さなければ、赦されないまま残ります。だから教会の赦しは、神様の心を動かすもの、動天の赦しなのです。罪を治める力、神様の赦しを求める力。それが教会の赦しの力なのです。

今日の福音書19節には、「あなたがたのうち二人が地上で心をつ一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる」と書いてあります。ここで「心をつ一つにして」という言葉は、ギリシャ語で「シンフォネオ(συνμολωνεω)」と言います。そして、この単語は、後に「シンフォニー」の語源になります。私は、音楽についてはよく分かりませんが、この「シンフォニー」は、共に音を出す、調和をなすという意味だと分かっています。私たちが共に音を出すと、私たちが調和をなして神様に求めると、神様は私たちの祈りを叶えてくださるでしょう。そしてイエス様は、ご自分の名によって集まった所には、ご自分もいると言われました。だから、私たちが御名によって集まった所、礼拝をささげているこの場には、イエス様が共にいるのです。私たちが共にささげる祈りには、神様が答えられるのです。これは何という大きい恵みでしょうか。今日の福音書は、この驚くべきことを私たちに教えてくれています。

今日は、一致祈禱日です。それで、関東地区のルーテル教会は、みんな教会の祈りの時間に、一つの声で同じ祈りをささげます。関東地区の教会の一致のため、災害の中の社会のため、次世代のため、福島のために祈ります。そして今日の福音書の言葉通り、神様は私たちの祈りを聞いてくださるのです。私たちの祈りは、神様の御心を動かすのです。今日の私たちの祈りが神様の御心にふさわしい祈りになりますように。私たちの赦しが天を動かす赦しになりますように、主の御名によって祈ります。アーメン